

★★ 桜、咲く！高等部選考検査終わる ★★



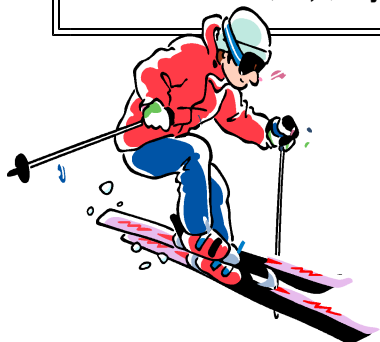
□人生にはいくつかの大きな節目になる出来事がある。その最初の大きな節目となるものが高校入試だろう。私の場合は、記憶の彼方にぼやけてしまっているが、最初の受験科目、国語の答案用紙に記名をしたかどうかさえ覚えてないほど緊張して臨んでいたことを、今も懐かしく思い出す。人生の節目・節目を、自分なりの努力を積んで乗り越えた体験は、その感慨や感動もひとしおである。その節目に費やした自助努力を振り返ると、自分に自信がわいたり、成長したことを実感できる。人から与

えられたものは3日もたてば忘れるが、自助努力で手に入れたものは一生の宝となる。
□私は、当校の子どもらにもその感動を味わわせたいといつも思っている。その好機の1つが当校高等部選考検査（高校入試）である。高等部選考検査は面接検査を主とするものであるが、高等部に入学した後に必要となる基礎的な学力を身に付けるための学習や模擬面接を、受験勉強としてしっかりやらせたい。一人一人の子どもたちの特性に配慮しながら、受験を意識させた適度の緊張感やプレッシャーも体験してほしい。高等部に出願した受験生たちは、当校中学部や中学校の担任から、このような受験指導を十分受けて、2月5日（金）の高等部選考検査に臨んだ。

□選考検査当日、小雨が降る中、受験生が保護者とともに総合支援学校に登校し、受付を済ませた。一人の遅刻もなく受験生全員が集まった。どの顔にも普段は滅多に見せない緊張感が漂っている。オリエンテーションの後、面接検査が始まった。面接官は校長と教頭である。面接時間は15分程度、比較的短い時間だが、緊張している受験生には長く感じられる。面接官はもったいぶって、受験番号や氏名、志望の動機、中学時代の出来事、高等部での決意や抱負などなど…、矢継早に質問攻めにする。受験生はというと、「中学時代は修学旅行が一番思い出に残っています」とか「高等部に入学したら、作業学習を頑張りたいです」、「図書館のMSGカフェで働いてみたいです」などと緊張しながらも、堂々とハキハキ答えて、感心させられる。面接が終わると、ホッとした顔付きになって、「有り難うございました」と深々と一礼して、面接室から退出していく。こうして、面接検査がとどこおりなく終了した。

□翌週2月8日（月）、合格発表の日、午前9時半、総合支援学校玄関ロビーに、合格者番号（名簿）一覧が掲示された。三々五々、受験生が玄関ロビーに集まり、真剣な顔付きで、自分の受験番号を探す。「あった！合格だ！」と、思わず笑みがこぼれる。担任の先生から「よかったね！合格おめでとう！」と祝福を受けて…、はにかんだり、胸を張ったり、笑ったり…、記念写真を撮ってもらったり…。喜色満面、心に喜びがはじける。こうした合格（成功）体験を通じて、受験生には自尊感情が育まれ、自信が芽生え、高校生としての自覚やプライドが育つ。夢や希望も生まれる。新入生の入学する日が今から待ち遠しい。受験生諸君、合格おめでとう！

スペシャルオリンピックス（SO）新潟大会、週末から開幕…



□昨年 11 月、スペシャルオリンピックス（SO）新潟大会を応援する会代表の中島太一さんが、カメラマンを従えて来校した。中島さんは地元南魚沼市の出身で、私の六日町高校の同級生であり、新潟市内で映像教材出版社を経営する社長さんでもある。聞くと、応援する会として、SO の理解啓発ビデオ（DVD）を 5000 部ほど制作して、市内小・中・総合支援学校の全児童生徒にプレゼントしたいという。ついては、子どもたちの体育授業を取材させてほしい。六高の同級生でもある青木の、協力を是非ともお願いしたいとのこと。この日は終日当校に詰めて、小・中学部の体育授業をカメラに収めたり、担当教員に取材したりして、夕方新潟にもどっていった。先般、その完成したビデオ（DVD）が学校に届き、保護者の皆さんもすでにご覧になられたことと思う。応援する会他にも、FM雪国でSOのCMを流したり、当校からアスリートとして出場する小学部山口大将さんや中学部野澤敬音さん、中学部の子どもたちによる、インタビューを折に触れて放送したりしてきた。先月 1 月から大会直前まで、市民会館には当校を含む市内小中学生が制作した、参加都道府県の応援フラッグ（旗）が展示されていた。

□SO新潟大会は明後日から 3 日間の日程で開催される。初日は新潟市朱鷺メッセで開催される開会式に、総合支援の子どもたちはバス 2 台仕立てて出席する。この開会式では、小学部山口大将さんがトーチャランを行い、中学部野澤敬音さんが旗手を務める。しっかり頑張ってもらいたい。続く、土曜・日曜も学校をあげてSOに参加する。土曜は競技種目に先立ち、競技コースをSO名誉会長細川佳代子さんとともに、小学部樋口達也さんがオープニング（前走）で滑走する。スノーシューに小学部山口大将さんが、フロアホッケーに中学部野澤敬音さんがアスリート（選手）として出場する。また、各都道府県からやって来るアスリートやボランティアらとの交流会に、MSGカフェを出店したりして親交を深める。最終日（日曜）の南魚沼市民会館での閉会式には、中学部の子どもたちが音楽やダンスを披露することになっている。総合支援学校の子どもたちには、このSOに応援や交流、アスリートとして参加し、世の中にはもっと広くて、大きな世界があることを体感してほしい。そして、SOが終了した後も、この南魚沼の地にSOの精神が根付き、SOの活動が広がってほしいと願う。そのことが、このSO新潟・南魚沼大会に私たちが参加する意味だと思う。



〈寺口真一さん、肢体不自由児援護表彰を受ける！〉

県知事連会長寺口真一さんが、北窓隆子副知事が理事長を務める公益財団法人新潟県肢体不自由協会から、肢体不自由児援護表彰を受けることになりました。毎年県内の子どもの養育や教育・福祉に大きな貢献をした個人や団体が表彰を受けます。寺口さんのここ数年来のPTA活動やSOボランティア活動などが評価されたものです。寺口さん、私たちも誇りに思います！心からお祝いを申し上げます！表彰式は 2 月 18 日（木）県庁で行われます。

